

冷蔵庫や家具が目の前に倒れて…地震ザブトン VR

「揺れ体験教室」も各地で開催



⑤地震ザブトンは色の濃いじゅうたんの上を凄
勢いで動く⑥座るときはしっかりベルトをして

椅子型の装置と二次元スクリーンの映像によって、地震をリアルに体験できる「地震ザブトン」と、さらに立体的な映像を見ることができる「地震ザブトン×VR」を、財団職員が見学、体験しました。

「地震ザブトン」は東京・府中に本社のある白山工業が販売・レンタルし、「揺れ体験教室」も各地で開いています。白山工業は地震や火山に関する情報を測り、システムを作って販売している会社です。ベルマーク財団主催の理科実験教室でおなじみの「Dr. ナダレンジャー」こと納口恭明さんが所属している国立研究開発法人・防災科学技術研究所も「地震ザブトン」を早くから導入しており、その社会的な活用にも取り組んでいます。

東京工業大学の翠川三郎氏（地震工

学）と広瀬茂男氏（ロボット工学）、白山工業が共同開発し、2011年に「地震ザブトン」が製品化されました。多様な地震観測記録データを使って正確な地震動が再現されます。最長で約3分間。揺れと、家具や食器が崩れる実写映像がうつる前方のスクリーンによってリアルな地震体験ができ、単なるアトラクションにならないよう工夫されています。「VR」は株式会社構造計画研究所と共同で開発しているところで、まだ販売されていません。

「地震ザブトン」が動くのは3辺四方のマット上です。スピーカーやプロジェクターを含めても必要なのは縦3.5辺、横4.5辺の広さで十分です。体験できる地震の種類も多く、過去に起きた直下型、海溝型、長周期地震、また1階か高層階かを選べるメニューもあります。室内専

用なので、100Wの電源とスペースさえあれば、実施できます。

「揺れ体験教室」は学校や企業、自治体に出向いて開催しています。幅広い年代を相手に6年間で350回以上、2万人以上が揺れを体験してきました。揺れの体験を中心とし、事前学習と体験後の考察がプログラムに組み込まれています。

この教室は、正しい地震対策の知識を身につけてもらうために開いています。地震が起きた時に、机の下にもぐるのは意外と難しく、事前に家具を固定して転倒防止をしておくことが大切であることに気づいてもらう必要があります。実際に訓練を導入した企業からは「家庭での準備がまず大切だと認識できた」「実際は『何もできない』ということを学べた」という感想がありました。

2013年には地域安全学会の技術賞

を、2016年にはジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞を受賞し、防災・減災対策の実力を評価されています。

開発中の「地震ザブトン×VR」のVRは、バーチャル・リアリティの頭文字です。人間の五感などを刺激して、あたかも現実のような環境を作り出す技術です。ゴーグルを装着することで、人間より大きな家具が倒れて自分に迫ってくる様子を見ることができます。従来の「地震ザブトン」や起震車にはない体験です。揺れ方は、阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などから選べます。

VR版はこれまで規制が厳しく小さな子供が体験することはできませんでしたが、今年2月上旬から7歳以降も体験できることになりました。商品化に向けて関係者の期待が高まっています。

元なでしこジャパン・丸山桂里奈さんデザインのTシャツ発売

アパレルメーカーの協賛会社ファインプラス（ベルマーク番号39）が、元女子サッカー日本代表（なでしこジャパン）の丸山桂里奈（marukari）さんがデザインした半袖Tシャツを発売しました。

丸山さんのオリジナルキャラクター『カリンコちゃん』は、雲をモチーフに「どんなときでも空を見上げるとそばにいて見守ってくれている」というコンセプトで描かれています。

Tシャツのデザインは4パターン、各3色展開。サイズは幅広く着用してもらえるよう、大人用のXS～XLサイズが用意されています。いずれも定価1900円（税込み2,052円）で、ベルマーク点数20点がつきます。

全国のカジュアル衣料品店等でご購入いただけます。



漫画家2人に感謝状

喜田川まさゆきさん、つのださとしさん

ベルマーク新聞に長年にわたって漫画を掲載していただいた喜田川まさゆきさん、つのださとしさんのお2人に、ベルマーク財団は4月24日、感謝状を贈りました。

喜田川さんは、4コマまんが「ベルちゃん」で、時々世相を映したストーリーを、愛らしいキャラクターによって表現し、紙面に彩をあたえてくれました。連載は1985年4月に始まり、紙による新聞の最終号となった2018年1月号まで、計366回にのぼります。

また、つのださんは、ひとコマまんが「ベルマークのひとコマ」で、時々世相や季節感を一枚の絵で表現していただきました。1998年2月から始まり、同じく2018年1月号まで、計112回を数えました。

贈呈に際し、東京・築地の財団事務所を訪れたお2人は、「1回も休まず連載を続けたんだっとなあ」などと、過去を振り返って感慨深げな様子でした。



喜田川まさゆきさん（左）、つのださとしさん

◎インクカートリッジとテトラパックはメーカーの回収センターに送って下さい

エプソン、キヤノン、ブラザーが実施しているインクカートリッジやトナーの回収と、日本テトラパックが実施している紙容器の回収につきましては、回収箱を必ず各社指定の回収センターにお送りください。財団で受け取ることはできません。

各メーカーの回収センターは、箱に住所が表記されている場合もありますが、たいていは住所が書き込まれた宅配便伝票と一緒に付いています。ご確認のうえ、必ずそちらに送るよう、お願いいたします。

財団あてに送られてきた回収箱は、結局は元のPTAに送り返されることとなります。そうすると、もう一度メーカー指定のセンターに送り直す必要があり、料金も手間も余計にかかってしまいます。どうかご注意ください。

◎財団見学

☆2月9日、東京都中野区の区立中野中学校（矢口仁校長）2年生11人。「総合的な学習」の一環で、社会貢献活動とは何かを聞き取り調査に。

☆2月21日、旅行業大手のクラブツーリズム（本社・東京都新宿区、小山佳延社長）千葉旅行センターの「エコスタッフ」25人。